

「もしも」の事態の備えを万全に

10月31日、総合防災訓練および健康危機管理訓練を実施しました。総合防災訓練では、菊池地域にマグニチュード6.5の地震が発生したという想定で、黒石公園グラウンドと黒石市民センターを会場に、黒石区・黒石団地区の住民の避難訓練を実施しました。訓練には900人を超える市民が参加。幼児や高齢者の手を引いて、助け合いながら避難していました。



市長に避難者の人員を報告

市長に避難者の人員を報告する姿も見られました。

会場には地元消防団のほか、菊池広域連合消防本部や大津警察署からも参加があり、初期消火訓練や救急法訓練などの指導が行なわれました。中には「夫婦二人で農作業をするので、どちら



発熱外来の現地訓練

また、同時にふれあい館で実施した健康危機管理訓練では、市内で新型インフルエンザがまん延し、市民に健康危機が生じた場合に、被害を最小限にとどめることを目的として、発熱外来運営の現地訓練を行ないました。これは、昨年度に策定した「合志市新型インフルエンザ対策行動計画」に基づくものです。市立病院がない本市では、公共の施設を利用して発熱外来を設置するため、ふれあい館が診療所としての機能を発揮できるように、待合室や診察室の運営を職員が体験しました。

訓練では職員がそれぞれ医師役・看護師役・患者役を演じ、市民の誘導や応対、消防署の救急搬送との調整などを体験して、問題点や課題を話し合いました。

市民が主役のまちづくりに向けて

11月23日、ヴィーブル文化会館で「合志市自治基本条例シンポジウム」を開催し、約500人の参加がありました。

前半は、「地域主権時代の住民自治」試される地域の力」と題し、佐賀県知事の古川康さんが基調講演を行ないました。講演では、地域で発生した問題を解決していくことの具体的事例を交えながら、「自分たちの地域のことを自分たちで考えて自分たちで決める、当然責任も自分たちで取るようになる」といった内容が話されました。古川さんの分かりやすい講演に、客席の参加者は静かに聞き入り、メモを取ったり、納得したようにうなずいたりする姿が見られました。



講師をつとめた佐賀県知事の古川康さん



活発な意見が交わされたパネルディスカッション

後半では、熊本県立大学総合管理学部教授の桑原隆広さんをコーディネーターに迎え、市民から元自治基本条例検討懇話会会長の古賀靖雄さん、NPO法人ワークライフバランス共議会議事長の塚本薫さん、市議会から総務常任委員長の辻敏輝さん、行政から荒木市長の4人のパネラーにより、「未来に誇れる合志市づくり」というテーマでパネルディスカッションを行ないました。パネラーからは、「市民主役のまちづくり」を目的とした自治基本条例を検討したときの思いや、条例に期待することが話され、「ここまでは自分たちでやるからここからは行政で」といったような議論が地域で活発になってほしいという意見も出されました。



歌って 踊って 笑って 食べて 楽しんで

合志市

秋のフェスティバル

Autumn Festival

- ①合志中部保育園の鼓笛隊
- ②小羊保育園のダンス
- ③大道芸人「ちゃちゃ丸」のパフォーマンス
- ④合志南小6年1組のソーラン節
- ⑤かすみ保育園の演技
- ⑥文化祭のステージ部門
- ⑦環境フェスタのフリーマーケット
- ⑧舟天行列の福まき
- ⑨地産・地消コーナー
- ⑩文化祭の作品展示
- ⑪あいさつする荒木市長
- ⑫市民ストリートパフォーマンス

11月6・7日の2日間、「合志市秋のフェスティバル」を市役所合志庁舎周辺およびヴィーブルで開催しました。このフェスティバルは「第4回合志市民まつり」「第4回合志文化祭」「第2回環境フェスタ」の同時開催で、2日間でのべ1万5千人の人出でにぎわいました。市内保育園児たちのかわいらしい鼓笛隊マーチやダンスなどがオープニングを飾り、まつりは和やかに始まりました。大道芸人のステージ披露や市民ストリートパフォーマンスでは、たくさんの方が集まり、大人も子どもも一緒に楽しんでいました。

また、地産・地消コーナーでは地元特産品を買い求めた人たちが、さっそく休憩所で舌鼓を打つ場面も多く見られました。文化祭や環境フェスタでは、参加した市民が主役となって日ごろの技や芸能を披露したり、環境問題について体験したりしていました。

両日とも秋の晴天に恵まれ、会場は終日、市民の笑顔であふれていました。